

2018年4月26日（木）

日本図書館研究会第337回研究例会

# 利用者から学ぶ超高齢社会の 図書館～平成28年度国立国会 図書館調査研究から～

国立国会図書館関西館図書館協力課調査情報係

阿部 健太郎

# 目次

1. 調査の概要
2. 超高齢社会とは
3. 図書館サービスにおける高齢者の位置づけの変遷
4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから
5. サード・エイジ：超高齢社会を支える高齢者と図書館
6. フォース・エイジ：認知症と図書館
7. ケーススタディ：超高齢社会における図書館サービス
8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ
9. 成果報告会

# 1. 調査の概要

- ・ 図書館及び図書館情報学に関する調査研究

目的：全国の公共図書館の取組の検討に資する

- ・ 平成28年度「高齢化社会における図書館サービスに関する調査研究」

背景：高齢化の急速な進展に伴い、公共図書館のサービスと地域の高齢者との関係に新しい動向

外部機関との連携による、高齢者を主な対象とするサービス

地域の高齢者との協働によるサービス

高齢者との関係において先進的あるいは特徴的な図書館サービスを提供している公共図書館の事例を調査

# 1. 調査の概要

- ・ 調査期間：2016年9月から2017年3月まで
- ・ 外部に委託
- ・ 受託者が研究会を組織して調査

小川敬之氏（九州保健福祉大学保健科学部教授）

呑海沙織氏（研究主幹。筑波大学図書館情報メディア系教授）

溝上智恵子氏（筑波大学図書館情報メディア研究科長）

（五十音順）

# 1. 調査の概要

- ・ 目的

背景：ポジティブ・エイジングの視点の欠落、認知症への  
目配りの欠如

高齢者をサード・エイジ、フォース・エイジの枠組みで捉え直す  
→超高齢社会における図書館の課題、あり方を考察

サード・エイジ： 生涯学習の観点から

フォース・エイジ： 認知症を取り上げる

# 1. 調査の概要

- ・ 調査手法

  - ケーススタディ（事例調査）

  - インタビュー調査

- ・ その他

  - 高齢者サービスに関する先行研究の整理

  - 超高齢社会、認知症、高齢者サービスに関する文献調査

# 1. 調査の概要

- ・ ケーススタディ（事例調査）

対象機関のサービスについて、文献調査や現地調査を実施

対象：3機関

日向市大王谷コミュニティセンター図書室（宮崎県）

川崎市立宮前図書館

横浜市都筑図書館

# 1. 調査の概要

- ・インタビュー調査

目的：高齢者の図書館サービスへのニーズを明らかにするため

対象：川崎市立宮前図書館と横浜市都筑図書館が

サービス対象とする地域の高齢者（図書館の非利用者も含む）

20名



# 1. 調査の概要

- ・ 調査結果

- ケーススタディ（事例調査）

- 各機関が提供するサービスの概要やサービスを実施するに至った経緯などが明らかに

- インタビュー調査

- 高齢者の図書館利用の現状と今後のサービスのあり方について明らかに

# 1. 調査の概要

- 成果の公表

報告書を刊行

図書館調査研究レポート No.16

『超高齢社会と図書館～生きがいづくりから  
認知症支援まで～』

国内外の主要図書館等に配布、当館ホームページで公開

<http://current.ndl.go.jp/report/no16>

# 1. 調査の概要

参考：

E1917 - 超高齢社会と図書館：国立国会図書館の図書館調査研究

カレントアウェアネス-E No.325 2017.05.25

<http://current.ndl.go.jp/e1917>

## 2. 超高齢社会とは

- ・ 「高齡化社会」 「高齡社会」 「超高齡社会」  
65歳以上の人口が全体の人口に占める割合  
高齡化社会 7%  
高齡社会 14%  
超高齡社会 21%
- ・ 日本の高齡化率 27.3%  
(平成29年版高齡社会白書)

## 2. 超高齢社会とは

- ・ 日本の高齢化

1970年 高齢化社会

1994年 高齢社会

2007年 超高齢社会

## 2. 超高齢社会とは

- 超高齢社会の課題
  - 生産年齢人口の減少
  - 独居高齢者の増加
  - 社会保障費の増大
  - 認知症
- 対策
  - 地域包括ケアシステム

### 3. 図書館サービスにおける高齢者の位置づけの変遷

- ・ 障害者サービスの中の高齢者
- ・ 一つの利用者カテゴリーとしての高齢者  
1980年代半ばごろより、高齢者を対象とするサービスが障害者サービスから脱却  
雑誌の特集（1986年の『みんなの図書館』、1999年の『図書館雑誌』）  
高島涼子らの研究  
公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（2001）により確立  
2007年問題（『学校の図書館』『現代の図書館』『図書館雑誌』などが特集、日図研もシンポジウム）

## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

### 高齢者を対象とした図書館サービスの実態

呑海沙織, 志賀渉, 溝上智恵子. 公共図書館における高齢者サービスの原状. 日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集. 2014, p. 45-48.



## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

### 超高齢社会における図書館サービスに関するガイドライン

- IFLA  
「認知症の人のための図書館サービスガイドライン」 (2007)
- 米国図書館協会 (ALA)  
「高齢者のための図書館情報サービス・ガイドライン (Guidelines for Library and Information Services to Older Adults) 」  
(2008 年版)
- カナダ図書館協会 (Canadian Library Association: CLA)  
「カナダの高齢者のための図書館情報サービス・ガイドライン  
(Canadian Guidelines on Library and Information Services for Older Adults) 」 (2002)

## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

### 超高齢社会における図書館サービスに関するガイドライン

- ・ 日本

「超高齢社会と図書館研究会」（2016年12月発足）

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~donkai.saori.fw/a-lib/>

「認知症にやさしい図書館ガイドライン」第1版（2017年10月）

<http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~donkai.saori.fw/a-lib/guide01.pdf>

## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

超高齢社会において図書館に求められる役割

- ・ 学習拠点としての図書館
- ・ 生きがい創出の場としての図書館
- ・ 居場所としての図書館

## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

- ・居場所としての図書館

「高齢社会のあるべき姿に関する意識調査」

（一般財団法人経済広報センター、2012年6月）

- ・高齢者になったときに利用したい施設等

→「銀行」（84%）「公共交通（鉄道、バスなど）」（82%）

「図書館」（75%）「郵便局」（72%）「温泉・入浴施設」（69%）

- ・高齢者になったときに、自宅の近くにあった方がよい施設等

→「病院などの医療機関」（86%）「公共交通（鉄道、バスなど）」

（81%）「郵便局」（66%）「銀行」（65%）「図書館」（64%）

「身近で頻度高く利用したい文化・教養施設として認識されていることがうかがえる」

## 4. 超高齢社会における図書館サービスの課題とこれから

- ・居場所としての図書館

『高齢社会のあるべき姿に関する意識調査報告書』（経済広報センター、2012）

<https://www.kkc.or.jp/data/release/00000080-1.pdf>

## 5. サード・エイジ：超高齢社会を支える高齢者と図書館

### 生涯学習の観点から

- ・ 生涯学習社会とサード・エイジ

  - 日本における生涯学習の状況

  - 中央教育審議会生涯学習分科会の議論

- ・ サード・エイジの図書館ニーズ

  - 生涯学習の場としての認識が低い

    - (内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」)

  - 高齢者のICTに対する考え方や利活用は急速に変化

    - (総務省「通信利用動向調査」等)

## 5. サード・エイジ：超高齢社会を支える高齢者と図書館

- ・ サード・エイジを対象とした図書館サービス
  - コミュニティ主導型図書館サービスの構築
  - ボランティア活動支援
  - 生きがい支援
  - 高齢者のための図書館オリエンテーション
- ・ 生涯学習拠点としての図書館

## 6. フォース・エイジ：認知症と図書館

- ・ 認知症とは
- ・ 海外の認知症支援（英国）
  - 回想法キットの提供
  - 「処方箋としての読書プログラム  
(Reading Well Books on Prescription) 」
  - 「認知症のための処方箋としての読書プログラム  
(Reading Well Books on Prescription for dementia) 」  
(2015年1月～)



## 6. フォース・エイジ：認知症と図書館

参考：

BBC（英国）

“RemArc（Reminiscence Archive）”

認知症患者の記憶を呼び起こす

認知症患者の記憶を呼び起こす英BBCのアーカイブ

“RemArc（Reminiscence Archive）”

Posted 2016年8月22日

<http://current.ndl.go.jp/node/32358>

## 7. ケーススタディ：超高齢社会における図書館サービス

- 高齢者が活躍する場としての図書館  
（横浜市立都筑図書館のボランティア団体「つづき図書館ファン倶楽部」）
- 図書館からアプローチする認知症支援  
（川崎市立宮前図書館）
- 福祉行政からアプローチする認知症支援  
（日向市大王谷コミュニティセンター図書室（宮崎県））

## 7. ケーススタディ：超高齢社会における図書館サービス

参考：他機関との連携

公共図書館と大学・学校図書館などとの連携

行政・議会などとの連携

E1939 - 久留米市立図書館における「こころの相談カフェ」の  
取組み

<http://current.ndl.go.jp/e1939>

E1802 - 新たな地域社会貢献：龍谷大学図書館と大津市議会との  
連携

<http://current.ndl.go.jp/e1802>

## 7. ケーススタディ：超高齢社会における図書館サービス

参考：

E1669 - 高齢社会における図書館について考えるシンポジウム  
〈報告〉

カレントアウェアネス-E No.280 2015.04.23

<http://current.ndl.go.jp/e1669>

E1818 - 認知症と図書館について考えるシンポジウム〈報告〉

カレントアウェアネス-E No.307 2016.07.14

<http://current.ndl.go.jp/e1818>

## 8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ

- ・ 高齢者へのインタビュー調査

調査対象：川崎市立宮前図書館と横浜市立都筑図書館のサービス

対象エリアに居住する高齢者20名

各館10名、「図書館をよく利用する人」（週1回） 「図書館をあまり利用しない人」（月1回未満）各5名

- ・ 調査方法

半構造化法による個別インタビュー（約40分／人）

2016年12月13日、20日 @宮前

2017年1月12日、17日 @都筑

## 8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ

### ・調査項目

- (1) 図書館利用（頻度、アクセス時間と手段）
- (2) 来館理由／非来館理由
- (3) よく利用する図書館の資料とサービス等
- (4) よく利用する図書館サービス以外の公共施設のサービス
- (5) あれば利用したいと思う図書館サービスとその理由
- (6) 高齢者に必要だと考える図書館サービスとその理由
- (7) 認知症への興味の有無
- (8) あれば利用したいと思う認知症に関する図書館サービスとその理由
- (9) 高齢者にとって必要だと考える認知症に関するサービスとその理由
- (10) 「認知症の人にやさしい本棚」の認知度（宮前図書館のみ）
- (11) その他

## 8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ

### 高齢者の図書館利用の現状

- ・ 高齢者の日常行動や図書館利用の目的・形態などが非常に多様である  
ボランティア活動に積極的に参加し、そのための資料を求めて図書館を  
頻繁に利用

高齢者施設での読み聞かせのボランティア活動に従事し、紙芝居を  
図書館にリクエスト

- ・ 図書館への物理的なアクセス手段が変化しており、配慮が必要である  
公共交通機関ではなく車を利用したいので遠方でも駐車場が広い  
図書館に来館

自転車を利用していたがバスを利用するようになったケース  
アクセスの良さを求める意見が多い

駐車場や駐輪場の整備、駅前返却ポストの設置、宅配サービスの実施などが必要

## 8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ

- 図書館の資料・情報へのアクセスに対するニーズがある  
 図書予約などにオンラインサービスを活用  
 電子書籍に興味がある  
 読むのがおっくうになってきたので朗読が聴けるとよい
- 場としての図書館に対するニーズがある  
 図書館において人との交流を感じる  
 図書館でボランティア活動をしたたりイベントに参加したりする  
 ケース



## 8. 高齢者の図書館サービス利用とニーズ

- ・ 認知症に対して高い関心をもっている  
多くの高齢者が認知症を身近な関心事として意識  
認知症に関する図書館サービスについては、図書館が積極的に  
関与していくことを期待。一方で、図書館の認知症支援への  
かわりに疑問をもつ人も
- ・ 主体的に社会参加することを望んでいる  
社会の一員として能動的に参画したい

## 9. 成果報告会

### 第19回図書館総合展フォーラム（2017年11月9日）

- ・ 調査の概要（NDL）
- ・ 超高齢社会と図書館（小川氏）
- ・ 調査結果の概要（溝上氏）
- ・ 図書館員と利用者との対談  
（舟田彰氏（川崎市立宮前図書館）、高齢利用者2名、呑海氏）

## 9. 成果報告会

参考：

配布資料

<http://www.ndl.go.jp/jp/event/events/lff2017.html>

E1985 - NDL, 図書館総合展で2016年度調査研究関連のフォーラムを開催

カレントアウェアネス-E No.339 2017.12.21

<http://current.ndl.go.jp/e1985>